

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎特集 第13回 SIGA
講演 小笠原流宗家 小笠原敬承斎氏

マクロコズム 2000.9



vol. 36

(財)青少年国際交流推進センター

The 13th SSEAYP International General Assembly 2000

1988年にマレーシア（於：クアラルンプール）で第1回を開催して以来、今回で13回を数えたSSEAYP International 総会が、インドネシアのバリ島で8月4日から7日の日程で開催されました。ブルネイ、マレーシア、フィリピン、タイ、シンガポール、ヴィエトナム、日本、そして主催国であるインドネシアの8か国から100名を超える参加者を得て成功裏に終了しました。内容は、インドネシア青年省局長及びバリ州副知事を迎えてのオープニングセレモニー、3年に一度行われる各国活動家へのSSEAYP International 表彰、各国活動報告、テーマ別ワークショップ、記念レセプション、そして2日目は高原の村における地元の人々との交流と、短い日程ながら充実したものでした。



左から総務庁青少年対策本部駒形
参事官、バリ州副知事、インドネ
シア青年省局長
◀（開会式にて）



開会に先立ちインドネシア政府関係者と
懇談する各国同窓会会長
▶



表彰状を受け取った
各国代表受賞者



オープニングセレモニー終了後に
参加者全員で



4つのグループに分かれてワークショップ
が行われました。
コンピュータネットワークのグループで
プレゼンテーションするシンガポール同
窓会のタン副会長

〔第2日目の交流会〕

IYEO 酒井会長がんばる！▶



IYEO 森田副会長（SSEAYP International 事務局長）バリダンスに挑戦！



▲ 村の子供たちとパン(?) 食い競争に挑戦

日本のみかんを作っている村でした。味は少々大味ですが、紛れもなくあの温州みかん。▼ みかん畑にも案内していただきました



▶ ココナツジュースのお持てなし
楽しい時間をありがとうございました



13th SSEAYP International General Assembly



◀
バリ州副知事から記念品を
いただく(筆者右)

(日本青年国際交流機構副会長)
(SSEAYP International 事務局長)

森田 正英

8月4日から7日までの4日間、「東南アジア青年の船」国際連携組織 SSEAYP International の第13回総会がバリ島のクタのホテルで開催された。2年前に予定されたバリ総会が同国の国内状況により延期されたが、今回、インドネシア同窓会組織による多大の努力によって開催の運びにいたったことを率直に喜びたい。

インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ブルネイ、ヴィエトナム、日本から総勢99名が参加し、日本からは、初めて「世界青年の船」の既参加青年4名が参加し、恒例となった山口県 IYEO から総務庁事業参加希望者4名も加わり、酒井 IYEO 会長を初めとし33名が出席した。

感慨深いバリ再訪

思えば今から14年前、第11回「東南アジア青

年の船」に参加してから2年目の1986年、バリ島での「第3回情報局会議 (SSEAYP インターナショナル総会の前身)」に参加したのが、わたしの事後活動の出発点である。

各国との連絡も十分に取れず、どのような事後活動が行われているかも把握できていない当時、4か国だけが集まった。各国の活動を規定する憲章が提案されたのもこのときで、翌87年の日本における「第4回情報局会議」で草案が起案され、88年の第1回マレーシア総会で施行された。また、各地にいる友達を訪ねることができたらという願いはバリの夜空を眺めながら芽生えた夢であったが、後にトラベル・ネットワークへと結実した。

その意味でバリ島は思い出深い地であり、今回は家族連れで参加したが、他にも日本、マレーシ

主な内容

13th SIGA	5~7	ネパールの青年等との交流会	17
Millennium Chat on SSEAYP DAY	7	なし狩り&バーベキュー	18
国際人として、知っておきたい		全国大会のお知らせ	19
日本の礼法と作法	8~16	インフォメーション	20

〈表紙の説明〉

第12回「世界青年の船」
日本国内プログラム
長崎県でのホームステイより

ア、タイ、インドネシアからも家族での参加があり、人の輪の広がり嬉しい。

充実した日程

初日はCOP（各国同窓会会長会議）が夜半から開催され、深夜に及んだ。

2日目は、開会式にイグスティ・バグス・アリプトラ (I Gusti Bagus Alit Putra) バリ州副知事と、ジャカルタから駆けつけたマクムリ・ムカレス (Prof. Dr. Makmuri Muchalas, Ph.D) 学校外教育・青少年局局長を主賓に迎え、局長のスピーチに続き、事務局長の歓迎の辞、駒形総務庁青少年対策本部参事官が総務庁長官のメッセージを紹介し、副知事がインドネシア式にゴングを鳴らし開会を宣言した。午前中は各国同窓会組織活動報告と事務局長報告、功労者の顕彰が行われた。日本からは坂田 IYEO 顧問が、長年にわたる SSEAYP International への貢献により SSEAYP International Award を授与した。

午後からは次の4つのワークショップに分かれ活動した。

1. ビジネス・ラウンドテーブル
2. コンピュータ・ネットワーク
3. トラベル・ネットワーク
4. バリの音楽・舞踊体験

夕刻は、知事の公邸で立食形式のディナーをご馳走になり、邸内のバリダンスの会場で新曲を中心にした4つのバリ・ダンスを観劇する機会に恵まれた。

3日めは、バリ中部にあるペラガ村を訪れ、ガムランの調べに迎えられ、村長の挨拶により出迎われ、村が力を入れている豊富な果物や香辛料、コーヒーなどによる農業観光促進が紹介された。

地元の青年や少年・少女とスポーツ交流を行い、参加青年は自分でもいだみかんに舌鼓を打ったり、バリダンスを楽しんだ。閉会式では、ラッフルによる資金集めを行い、最後は会場で全員が手をつなぎ輪になって Nippon-maru の歌を合唱した。

今後の課題

14年前と比べると、よくここまで来たという感慨とまだここまでかという苛立ちが、ないまぜになり、複雑な気持ちである。

10月7日は、第1回「東南アジア青年の船」のNLの日本参集日だそうで、それを記念して SSEAYP Day が設立されている。今年は、午後9時～11時（日本時間）からフィリピン同窓会のホスト・コンピュータに接続して、ミレニアム・チャットが実施される。これは、連絡もままならなかった時代と比べると隔世の感である。トラベル・ネットワークについても、9月初旬にもマレーシアがキナバル山のエコ登山を実施し、ブルネイなどからも参加が予定され、各国の積極的な取り組みなど新たな動きも目につきはじめた。

一方、今回はラオスとミャンマーにも SSEAYP International 事務局から招待状が送られたが、参加はなかった。拡大した ASEAN 各国と、デジタル・ディバイドや所得格差を考慮に入れ、どう連携を保っていくか。コンピュータ・ネットワークの強化は急務であり、昨年シンガポールで開設されたウェブサイトの情報発信、情報共有、広報活動をどう戦略的に展開するか。また、COP が一般の既参加青年と認識の上でギャップを生み出していないか。もしそうであれば、その意思決定の説明責任と透明性をどう確保するか。さらにはコンピュータ上での会議の実施をどう実現してい

くか。活動の展開についてのヴィジョンとリーダーシップなどをどう発揮できる組織に変革させるか。新たな課題も多い。

次回以降の展望

次回の開催国はタイ。6月下旬か7月上旬に予定されている。5千トン近い客船アンダマン・プリンセスを使つての1泊旅行も計画されている。

2002年に第15回SIGAが日本で開催されると、

開催国も2巡することになる。会期も、1日目の夜にCOP、2日に開会式・ワークショップ、3日めにツアーと閉会式、4日めはオプションなホームスティというのが定番になりつつある。今回のSIGAでは、「21世紀に向けて共に前進しよう」というスローガンが用いられたが、果たしてそのスローガンにふさわしい前進につながるかどうかは、ここ1、2年が大きな曲がり角に思われてならない。

Millennium Chat on SSEAYP DAY (October 7th, 2000)

第1回「東南アジア青年の船」の参加各国ナショナルリーダーが東京に到着した10月7日を“SSEAYP Day”と称し、その日を記念して参加各国において、さまざまなお祝いがされているのをご存知ですか？

今年は、フィリピン同窓会から提案でミレニアム・チャットを行うことが、第18回各国同窓会会長会議(Council of Presidents=COP、8月のSIGA BALIの際に開催)可決されました。

まもなく、第27回を迎えようとしているSSEAYP。今年は、皆でチャットをして楽しみませんか？

日 時：10月7日(土) 日本時間 21:00~23:00 **ホームページアドレス**：www.sseaypaa-phil.org
チャットルームは以下の部屋に分かれて

1. 70's and 80's (70年、80年代参加者)
2. 90's and 00's (90年、2000年代参加者) 今年度参加予定者の方も参加可能!
3. General chat room (参加年度に関係なく、自由にチャットできる部屋)
4. COP room (各国同窓会会長会議の部屋)

申込方法：各自で次の時間に申し込下さい。 受付開始時間：10月7日(土) 午前 9:00
受付締切時間：10月7日(土) 午後 21:00

Step1 上記のアドレスを開く。レジストレーションフォームのページにアクセスし、必要事項を記入する(名前、ニックネーム、住所、E-mail アドレス、Batch(西暦)、Registration code 等必要事項を記入)。Registration code は、ニックネーム+Batch(西暦)+国のイニシャルを入れる。

例：.E.g ariari96J(ニックネーム-ariari、Batch-'96年度参加、国-日本はJ)

Step2 記入が済んだら、フォームを送る。

ル - ル：*常識的なエチケットを守ってください。例えば、人を中傷するようなことは書かない、ある国に対して攻撃的な意見をしない等。混雑も予想されますので、メッセージは短くし、多くの方がアクセスできるように協力しましょう。

国際人として、知っておきたい日本の礼法と作法



「小笠原流礼法

—美しい形、その心—

講師：小笠原流礼法宗家

小笠原敬承斎

ただ今ご紹介にあずかりました小笠原でございます。名前が堅いものですから、年配の男性を想像されていた方は、少しびっくりしていらっしゃるかもしれません。本日は私と同世代の方々や私よりも若い方々にもご出席いただいておりますので、皆様方とできるだけ近しく、何かお心にお留めいただけたらという思いで、お話をさせていただきます。

（国際交流と自国の文化）

冒頭の山田理事長のお話にもございましたように、私も常々、国際交流をする上で、他国の文化よりもまず自国の文化を理解していただきたいと感じております。実は、私にも同じような経験がございます。先代は私の祖母の弟ということになりますので、私は生まれながらにして宗家になるために育てられたのではなく、学生の頃は、自分の学びたいことを学び、自分のやりたいことをやる、非常に自由な環境にございました。学生時代に、留学するのが盛んな時期でもあり、私もイギリスに留学しました。その中で、せっかくいろ

いろな国の方が集まっているのだからと、文化交流の日というのが設けられました。自分の国のお料理ですとか、何か自分でパフォーマンスをして、自国のことをいろいろな人にお伝えしようという日です。その学校の中で一番人数が多いのは、日本人だったのですけれども、私を含めまして、何をしたらいいのか、どういうことを相手の国の人達にアピールしたらいいか、人数が多い割には、一番意見も乏しく、非常に悔しい思いをしたことがあります。その一方で、タイの国の男性が、同じぐらいの年の方だったのですけれども、まず、タイ料理をいろいろなスパイスで作って、こういうお料理があるということを一人で盛んにアピールなさって、そしてまた、タイの国の舞踊を披露なさいまして、その方が輝いて見えるぐらい自分の国に誇りを持って交流をしていこうとしているのを強く感じました。その時に、私は、小笠原流というものが身近なものであったにもかかわらず、そういったものをまず見ないで、他国の文化に興味を持ってしまった自分について、改めて考えさ

せられました。それまでは、非常に厳しいしつけの中で、もっと楽にできたら、と思う時がありましたけれども、それからは、自分から目を向け、足を向けて、小笠原流に携わっていきたいと思うようになり、それが今日の私の活動に続いているのではないかと感じます。今日はぜひ皆様方にも、日本の文化というものがどういうものであるかということをご理解いただきたいと思って、お話を進めさせていただきます。

(なぜ畳の縁を踏まないか)

礼儀とか作法という言葉を見ると、どうしても堅苦しいものを想像してしまいがちです。例えば「畳の縁を踏んではいけない」というように、「こうでなくてはいけない」という作法の教育が、戦前まで非常に浸透してしまったことが、その理由にあげられると思います。ただ、例えば、畳の縁一つとりましても、私どもの伝書、伝書というのは多くは室町期に書かれた古文書を指しますけれども、「畳の縁を踏んではいけない」という言葉はどこにも書いてありません。ただし、昔、位の高い方に対してお料理を運ぶ時には、「目通り」と申しまして、目の高さにお膳を持ち上げて運びました。お膳は、相手の方が召し上がるお料理がセットされているものですから、運ぶ人の息が吹きかからないように、偉い方のお膳ほど、高さを上げて、体から少し離して持ち運びをする。それと、畳は室町期から今のように敷き詰めて使われるようになるのですけれども、縁に非常に厚い錦を用いることで殿様の力を象徴したともいわれるぐらい高価な錦が使われておりましたために、畳の縁には少々段差がありました。ですから、お膳を持ち上げて足元が見えないのに、心得がないと、

そこで躓いて、自分にも危険があるし、周囲の方々にも不快な思いを与えてしまう。そういうことがないようにという心遣いから、普段のしつけの中で「畳の縁を踏まないよう、何歩で歩きましょう」ということが自然に身につけられていたのです。今のように畳と縁とにあまり段差がないときには、周囲の人々への心遣いから、時には畳の縁を踏んでしまったほうが、礼にかなうということもあるかもしれません。

(慎みの文化)

礼儀作法というのは何でも丁寧にすれば良い、と思われがちですけれども、決してそうではありません。お辞儀に関しましても、「お辞儀は三度にすぐべからず」と書いてあります。三回以上非常に丁寧なお辞儀をすることによって、一つひとつのお辞儀を軽くしてしまふ。また、「偉い人の前では、礼は簡略化しましょう」というのがあります。というのは、高位な方に対して深いお辞儀をするということは、相手にも深いお辞儀を強要することにもなりますし、また、自分の存在をアピールするということにもなりかねません。時には空気のような存在になるという心遣いも、日本の伝統文化の一つの特徴ではないかと思えます。

日本の文化の特徴を一言で申しますと、「慎みの心」と申し上げられるかと思えます。外国の方からは、日本人というのは自分の気持ちをはっきりと伝えない、イエス、ノーをはっきり伝えない、と思われがちですが、そこには、自分の気持ちを三ぐらいに止めておいて、相手の気持ちを十に考える、そして、相手の人が非常に楽しく、心地よい気持ちになることで、自分を含めた周りの環境を幸せにしていこうという、「慎みの文化」とい

うものが、いろいろな場面で養われてきたということも、忘れてはならない点ではないかと思いません。

私どもに「教えうた」として伝わっているものの一つに「ぶしつけは目に立たぬかはしつけとて目に立つならばそれもぶしつけ」というのがあります。「しつけがされていない人は、もちろん相手の人に対して失礼にあたることもあるかもしれないけれども、いかにも自分が作法を知っていますよ、ということを前面に出してしまったのでは、しつけのない人と同じように、やはり相手の人に対して、失礼である」ということです。「目に立つ」とか「前きらめき」というようないろいろな言葉で、自分だけをきらきら引き立たせてしまうことを戒める言葉が、伝書に多く出てまいります。

(相手を大切に思う心)

次に、礼法は堅苦しいものではないということを一言で表わしておりますのが、「時宜によるべし」という言葉ではないかと思えます。「時宜によるべし」と申しますのは、今の言葉で言い換えますと、「TPOによってその場にふさわしい判断をして、その場にふさわしい振る舞いをいたしましょう」ということです。「こうでなければいけない」というべからず集の中でも、文末にこういった言葉が多く使われているということは、七百年前も、その時代に合わせた形が常に大事にされていたということがお分かりいただけるのではないかと思います。

礼法というのは、まず相手の人を大切に思う心、この心が最も重要でございまして、その心を形として表現するために作法というものが考え出され

た。心と形が一つになって礼法というものは成り立っている、ということをご理解いただき、実際の一つひとつの動きに話を移らせていただきます。

(姿勢)

まず、「立ち居、振る舞い」で最も大切な基本的な動作の中でも、一番重要視されるのが姿勢でございます。「姿勢を良くしましょう」と申し上げると、どうしても背筋を伸ばすことばかりに意識を集中してしまいがちですけれども、全ての背筋に力を入れるのではなくて、腰に背骨をぐっと入れ込むような感じで腰だけに意識を集中しますと、肩とか首のあたりに無理な負担がかからず、背筋を伸ばすことができますと思います。そして、ちょっと顎を引き気味にすると、きれいな姿勢が作れます。椅子にお座りになる時には、ほとんどの方が手を重ねて膝に置かれると思いますけれども、日本の作法の中では、手を離して置くのが、ある程度改まった席での手の作り方になります。肩ぐらいの高さから自然に手を下ろすと、両腿の同じ位置に手が落ちると思います。そこが手を置く位置で、そこに手を美しく作って置いていただきたい。指と指とを合わせた上で、親指と小指で中の3本の指を押すような形にすると、柔らかな少し丸みを持った手が作れると思います。それを先程の位置に、ご自分から向かってハの字に置くと、きれいな手と姿勢の作り方になります。

最近、女性で、膝と膝を合わせて座らない方が多くなっているように見受けられます。慣れないうちは、膝と膝をつけようとばかり意識せずに、足の親指と親指をきちんとつけて座ろうと思うと、自然に膝の方まできれいにつけて座ることができ

ると思います。男性は、膝と膝の間を二拳分ぐらい開けて、爪先は少し開いても結構ですけれども、必要以上に開きますと、男性でもあまりきれいではない動作になりますので、ご注意くださいければと思います。

（お辞儀と挨拶）

お辞儀は、会釈が15度で、敬礼が30度から45度というふうに、角度でお聞きになっていることが多いかと思います。この角度で覚えるということは、相手の人にもその角度をあてがってしまう、つまり相手の人に対して失礼になるということにもなりかねませんので、お辞儀は、自然に脇に垂らした手が体のどこに来るか、ということで覚えていただきたいと思います。お洋服の場合ですと、脇に手を垂らして、体が前傾するとともに腿に手が置かれる辺りが会釈、手がさらに深く膝頭に達するぐらいまでが敬礼の一番深い角度と覚えていただければと思います。

お辞儀をする時は、あわせて言葉を発する、つまり「挨拶」をなさると思います。おそらく、例えば「おはようございます」とか「ありがとうございました」という言葉と共に体が動作をしていると思います。これを一つひとつ分けて動作をすることで、より一層自分の心をそこに託すことができると思います。丁寧な挨拶というのは、まず

お辞儀をして、元の姿勢に戻ったところで挨拶の口上を述べて、もう一度お辞儀をする、というふうに三つに分けて動作をしていただくと、きれいなご挨拶になります。それでは相手の人とバランスがとれないという場合には、略式として、お辞儀をして元の姿勢に戻ってから「おはようございます」と申し上げるか、もしくは最初に「おはようございます」と申し上げてから会釈をする、という二つのパターンが考えられます。皆様方も、言葉とお辞儀を別々にするというのを普段の生活の中で取り入れていただければと思います。

（玄関で）

日本の文化の中では「清浄感」、すなわち、そのものが清潔であるということ非常重视にしてきた部分がございます。例えば、お茶室に入る時、足袋を履き替えたり、洋服の場合、白い靴下に履き替えるというのは、日本間が非常に神聖な場所であるから、外からの埃を持ち込まないという心遣いから、そういう行為がされます。

こういう考えは、玄関に入る一歩から始まります。つまり、コートをお召しになったり、マフラー、手袋などを着けて訪問先のお宅に入るとことは、外からの埃を持ち込むことになりますので、お玄関で呼び鈴を鳴らす前にそういったものを外して、片手にまとめてから呼び鈴を鳴らすというのが、日本文化の「清浄感」を表わしていると思います。そして、お玄関に入られた時、皆様方は、たぶん、入ってきた方向と逆の方向、つまり帰りにそのまま履いて帰られる方向で靴を脱ぐ、ということをお自然になさっているかと思います。ということは、せっかくそのお宅の家人の方が迎えてくださっているのに、入ってきてすぐその方に背



を向ける行為をしてしまうわけです。一遍に靴の向きを変えるのではなくて、まず入ったままの方向で靴を脱いでお玄関に上がり、相手の方に背を向けないように少し斜めを向き、それから膝をついて靴の向きを直す、という二段構えの動作をすることで、もてなされる側ともてなす側の心の交流が始まると思います。逆に、もてなす側としては、お客さまが向きを変え、下座側に並べられた靴を、今度はお帰りになる前に、家人の方がお玄関の中央にきちんと配置して差し上げるというのが大切ではないかと思います。その時に、ハイヒールとか草履の場合は、一足の両方をきれいにつけてしまうと履きづらいので、少しそれぞれの間隔を空けて置いておかれるのが、もてなす側の心遣いということになります。

(上座、下座)

国際儀礼、プロトコルにおきましては向かって左側、つまり自分の右が上位と考えます。しかし、日本の場合には、時代によって右左が逆転していく中で、最終的には、向かって右側、つまり自分の左側にいる人が上位ということになりました。プロトコルと逆になります。お雛様のお飾りを思い出していただきますと、関東では、お雛が向かって左側に、関西では、向かって右側にお雛が配置されます。これはどちらも間違っているのではなくて、関東の場合にはプロトコルに合わせたという見方もありますが、元々日本でもそういう考えがありました。三人いる場合には、中心が「中尊」、向かって右側が「客位」、左側が「主位」ということで、一二三という席次を考えますが、二人の場合は、「中尊」をなくして、「客位」と「主位」で考えます。ですから、向かって右側の「客位」

の方が上になるわけです。もう一つの説は、二人の場合に、「客位」と「主位」ではなくて、「中尊」と「客位」で考えます。そうしますと、一見「中尊」は向かって左側に見えるけれども、実はその方は常に中心にいらっしゃる上位の方ということになります。このようなことも、心にお留めいただくと、これから国際交流でいろいろな場面に遭遇された時に、自信につながって、ゆとりのある行動をしていただけるのではないかと思います。

(座布団の扱い)

席についてももう少し話しますと、洋室の場合、ソファーが一番格の高い椅子になります。一人掛けのアームチェアの方が格が高いとっていらっしゃる方が多いようですけれど、ソファーは一人でゆったりとお掛けくださいと提供する椅子ですから、入り口から遠い側にソファーを配置し、お客様にお勧めするわけです。日本間の場合には、座布団の扱いということになります。座布団は、椅子と比べて、持ち運びが簡単にできるので、自分の座りたい所にお座布団をずらすということが多く見受けられますけれども、もし、もてなす側の方が「ここにどうぞ」とお座布団を置いてくださったのであれば、それは洋間の椅子と考えて、御自身で好きなところへ動かすということは、極力避けていただきたいと思います。座布団は、椅子と同じように、相手の方が用意してくださったものですので、直接それを足で踏まないように、膝から入ってお座布団につく。そしてまた、例えばご挨拶をする時には、下座側に自分の体をずらす、お座布団をどかすのではなくて、自分がずれるようにしてご挨拶をする、というのが日本間での心得です。

（茶碗の蓋の扱い）

蓋付のお茶碗を出された場合に、蓋をどう処理したらいいのか、悩まれたご経験があると思います。逆に、もてなす側として、お客様にそういった煩わしさを与えるのは失礼になるのではないかと悩むかもしれません。蓋に非常にきれいな絵が描かれていたり、非常に凝った蓋の場合には、それをご覧いただきたいという気持ちもあるかもしれませんが、蓋の役割というのは、そもそも、中に埃が入らないように、ということと、中のものが冷めないようにという心遣いからなっているわけです。ですから、お客様の目の前まで運びました時に、提供する側が蓋を取ってお盆に置いて、蓋を外した状態で差し上げた方が、お客様としてはすんなりそのままいただけるということになります。相手が高位な方で、そのお茶碗に触れるのは極力避けたいというような場合を除けば、一般的には蓋を外した状態でご提供いただければと思います。その時に、お茶碗のどこか一点が卓に触れてから、全体の重さを落すようになさるとよいと思います。音をさせずに、その物も大切に扱っておりますし、相手の人も大切にしているという気持ちにつながっていきます。椅子に座る時にも、体のどこか一部分が触れてから、全部の体重を下ろすように、二段構えの動作をすると、粗雑な印象を防げます。このような心遣いをして、お茶碗を置いただけでも十分ですけれども、さらに、お茶托を手前に置いてから、2、3センチでも相手の方に寄せるような動作をなさると、もっと気持ちのこもったきれいな動きになると思います。

（お茶とお菓子、懐紙の扱い）

「お茶とお菓子と、どちらから出したらよいのでしょうか。」というご質問もよくいただきますけれども、お茶のような水物は、和洋を問わず、常に相手の右側に置かれます。洋食の場合でしたら、グラス類は右側、パンのような固形物は左側に置かれると思います。日本の場合でも、お吸い物など汁物は右側、ご飯が左側というのは、決まった定位置です。ですから、例えば、お客様の右側から茶菓を提供する場合には、お菓子、お茶の順に、お客様の左側から提供する場合は、お茶、お菓子の順に、要するに、前に出したものの上を經由して動作をしないということが大切で、どちらを先にしななければいけないということはありません。

お菓子を出す時に、懐紙にのせて差し上げる場合があると思います。例えば、結納品は白木の上に出されます。これは、白木の台が、神聖で、それに託す、差し上げる側の心も清浄ですよ、ということを表わしています。お月見の時に、三方の上にお団子をのせる場合、常緑樹の葉を紙の代わりに敷くのも、同じように、そのものが清浄な物ですということを示すために、こういった物が用いられます。お客様をもてなす側としては、紙を使うということが礼を表現することになりますので、懐紙の折り方を一つだけ、折り方の代表として、ご紹介したいと思います。

懐紙を使う時には、常に、輪（折り目）が手前になります。一般的な訪問やお祝いの場合には、この輪を、二つ折りにした懐紙の上の右側の部分が上側にずれるように折っていきます。その時に、角でできる三角形が、同じ大きさ、同じ形になる



ようにするとバランスよく見えます。輪を手前にして、左の方を上にならずに折ると、弔事の場合の懐紙の折り方になります。そして、生菓子のようなものですと、おそらく楊枝をおつけになると思いますが、いただく側として、先の部分が汚れた楊枝を直接懐紙の上に置いておくのは、見た目が美しくなくて嫌だなと思われる時には、懐紙の右下の部分の少しだけ上に折り上げますと、ここに楊枝をさすことができます。さらに、召し上がっている内に、懐紙の上が汚れたのをきれいに隠したいと思われる場合には、「残花包み」という折り方があります。懐紙をいつもハンドバックや、男性の方も胸元に、少しだけご用意いただくと、お食事をいただいた時にお箸の先が汚れるとそれを隠すとか、チップを差し上げる時に、ティッシュペーパーではなくて、懐紙を使って金子包みを作ることでもできます。非常に用途の多い紙でございますので、デパートなどでご覧になった時には、一つご購入いただくとよろしいと思います。

(茶のいただき方)

お茶といいますと、室町時代はすべてお抹茶を指し、「天目台」という台に乗せて提供しました。「台からとりおろして飲むのは悪しきことなり。」と伝書に書かれております。ただし、二口、三口飲んで、熱くない時には取り下ろしてもいい、と書かれています。どういふことかといいますと、

その台は、お茶碗が熱くて持てないといけない、また、こぼれた時に支えになるであろうという、もてなす側の心遣いであるにも関わらず、お茶碗だけ取ったのでは、相手の心を受けとめていないことになる。ですから、少し飲んで熱くないとわかったところで、初めてお茶碗だけを取って召し上がってください、という趣旨が込められています。これを、お煎茶に応用する場合、まず左手でお茶托を持ち、右手をお茶碗に添えてみて、熱くなかったら、お茶碗だけを取りおろして飲む。ほんのわずかな心遣いですが、お茶托に添える心にかなうと思います。また、お煎茶のお茶碗でも正面だけに絵があるものがあります。正面に絵があるお茶碗というのは、もてなす側が、お客様のために選んで正面を向けて提供するわけです。出された側としては、心遣いとして、正面にすぐ口をつけるのは忍びないということで、お茶碗の正面を避けるためにお茶碗を回すわけです。相手の人にあまり目に立たずに、正面を避けるには、お茶碗を持った右手の親指の辺りから口をつけて召し上がらずに、少しだけ手首を内側に返して、親指と人差し指の間の部分から召し上がるようにしていただくとよろしいと思います。これには、もう一つの利点がありまして、女性の場合には、脇が締まって動作的にもきれいに見えます。

(金子包み)

次に、冠婚葬祭についてもポイント的なお話しをしたいと思います。

最初に、金子包み、お金の包みのことです。昔は、お金は汚いものと意識されていたので、お金を差し上げたり、頂いたりすることは少なかった。では、なぜこういう包みがあるのかとい

いますと、お餅に添えるきな粉とか、お赤飯に添えるごま塩などを入れる「粉包み」というものがあり、それが後世お金の包みに代用されたといわれています。この包みを折るにも、一折一折に込めた送り手の気持ちが、紙に表われるわけです。白い紙で包むということは、中のお金が清いものですよ、ということを表わします。お祝いの場合、上に白と赤の水引をかけるのは、赤がもともとめでたい色とされていたこともありますし、二つ重ねて、お祝いが重なるようにという語呂合わせで使われたともいわれています。水引には、もちろん、後ろ側を押さえるという役割もあるけれども、結んでいく一つひとつに気持ちを込めるということで、いろいろな使い分けが、この結び方でされます。「あわび結び」は、両端を引けば引くほど、どんどん結びが強くなってまいります。ほどけない結びということで、特に婚礼の場合は、一度限り、という思いをこめて、「あわび結び」をします。婚礼以外にも、例えば喜寿のお祝いのように、その方の歳祝いの中で一生に一度きりということであれば、贈り手として、この一度のお祝いを心を込めて贈ろうと思えば、「あわび結び」で差し上げることになります。一方、蝶結びと一般にいわれているものは、「もろわな結び」と私どもでは呼びますが、引けばすぐにほどけてしまう結びでございます。ですから、入学祝いとか、昇進祝いとか、普段の贈答のように何度あっても良いことには、「もろわな結び」を使います。この「あわび結び」と「もろわな結び」には、陰と陽の結び方があります。今は市販のものは陰の結び方で統一されているようですが、かつては、陰と陽で、それぞれの思いを表現していたのです。

次に、金子包みの「のし」についても、一つだけご紹介します。「のし」というのは、アワビをりんごの皮をむくように細くむいて、天日で干して、水でもどして、「火のし」という昔のアイロンで、のして作った。昔から、アワビはお酒の肴の代表ということで、儀式の時、必ず神様に「のし」をお供えします。金子包みに「のし」を付けるのは、中のお金をお酒料と見立てて、このお肴で一献お祝いをしましょうという気持ちがこめられているのです。生臭もの、魚鳥類というのは、仏事には嫌われるということから、弔事には「のし」は付けられないことになりました。お中元、お歳暮、季節のご贈答などで、魚鳥類を品物としてお選びになった場合には、かけ紙に「のし」が印刷されていると、魚鳥類が重複したことになります。金子包みには、紙、水引、のし、一つひとつに気持ちが込められて形になっているということをご理解いただけたと思います。

（風呂敷の扱い）

お金の包みとか品物をお持ちになる場合、風呂敷とか袱紗に包んでお持ちになると思います。紫のちりめんの風呂敷と袱紗をご用意されると、慶弔両様にお使いいただけます。その上で、御自身のお好きな柄、華やかなものを揃えていただくと、お祝いですとか、いろいろなご訪問に使えますと思います。風呂敷というものは、茶碗の蓋やコートと同じように、塵除けのために存在しております。ですから、品物を包んだままお渡しするというのは、埃のまま差し上げることになりますので、風呂敷を外して、中のものを相手にお渡しすることが大切です。お土産を包んだ場合に、最後の両端を結ぶことがあると思います。これは、持っ

て行く時に持ち易いようにということで、送り主が自分のために結ぶという意味しかありません。ですから、相手のお宅について、お土産を差し上げるという段階になった時には、風呂敷は、ただ掛けてあるだけにしておくのがよろしいと思います。

風呂敷の掛け方は（袱紗も同じ）、一般的にお使いになる場合には、風呂敷の四隅が上下左右になるように広げ、その中央に品物、お金の包みなどを置き、下左上上の順で、風呂敷を掛けていただくとうよろしいと思います。風呂敷から出すときは逆の順に開きます。風呂敷から出した後は、端と端をお持ちになりながら、少し小さ目に風呂敷を畳んでご自分の脇に置いておくと、きれいな動きになると思います。

（質問に答えて）

「礼儀作法はどのようにして生れたものですか」

礼儀作法というのは、人間関係を円滑にしていくための一つのツールとして考え出されたもので、平安時代から公家の文化の中でも礼儀作法といわれるようなものは作られています。武家礼法は、武家が中心になってきた時期に、教養もなく、荒ぶれた武士達を統率し、お互いの関係を円滑にしていくための一つの手段として生まれてきたもので、その時代時代に則して、古くから伝えられてきたもの、自然に生まれてきたものです。

「お土産は、どのタイミングで渡したらよいのですか」

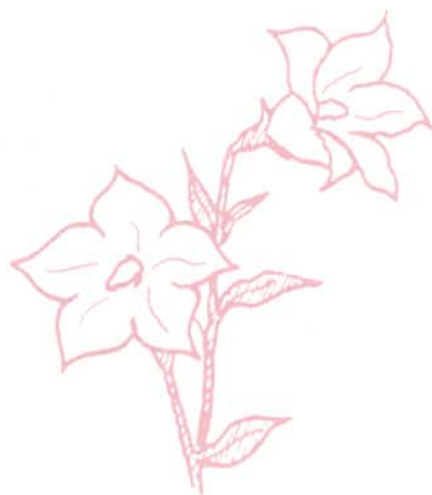
お土産を渡すタイミングは、例えば、すぐ冷蔵庫に入れていただきたいものなど、すぐ処理していただきたいものは、例外として玄関先でお渡し

することもあるけれども、基本的には、部屋に通されて、相手の方と挨拶をする時に、その流れとともに、お土産を差し上げる。つまり、なるべく最初にお土産を差し上げていただきたい。

「お詫びをする場合にはどのようなことに気をつけたらよいのでしょうか」

お詫びの気持ちを相手によりよく伝えるには、一度のお辞儀で、しっかりと言葉を申し上げる。時間的に余裕がない場合には、「申し訳ございません」と先に言って、お辞儀をする。その時に、普段よりも冷静を保てないかもしれないけれども、頭を下げた時間と体を元の状態に戻す時間、その速度を同じにすると、お辞儀にゆとりが出ます。言葉とゆっくりのお辞儀の中で気持ちを伝えると、たぶん相手の方にも伝わると思います。

（平成12年3月25日「第28回青少年国際理解セミナー」
講演要旨より抜粋）



～外国の理解は文化から！～

国際交流といっても、相手のバックグラウンドを知らずに接しては、深く理解することはできません。各国の生活、文化、習慣を学ぶ心が国際交流の基本です。そして、その機会を自分から作り出す積極的な姿勢が欲しいものです。

ネパールの青年等との交流会

長崎県 IYEO 会長 末永 透

長崎県 IYEO は 3 月 5 日に長崎市内でネパールの青年等との交流会を開催した。長崎大学には日本で唯一の「熱帯医学研究所」が置かれている。ここに滞在しているのが今回の講師であるバス・デヴ・パンディさん。バスさんは医師であり、今年 3 月末に 4 年間の研究を終え帰国すると、無病院地帯に入り病院建設のスタッフとなることが決まっている。

私たちは長崎市の地球館という国際交流施設の協力を得て、チャリティ事業を開くこととした。ネパール料理とネパールの事情を少しでも住民の皆さんに知ってもらいたいとの交流会である。料理はもちろんバスさんが担当。タルカリ（カレー）など 3 品であった。参加費は料理込みで 1,000 円。売上金は全額をネパールの教育・医療支援のために寄付することとした。カレーは少しさらさらしていたが、独特のスパイスが利いた本場の味を味わうことができ好評であった。午後はバスさんによるネパールの話。2 階の小さな講演会場はほぼ満員で、40 人くらいの入場はあったようである。会場には熱帯医学研究所からアルゼンチン、ケニア、バングラデシュ、中国の留学生も駆けつけた。スライド・ビデオを映写して大まかな国の紹介をしながら、独特の帽子をかぶったバスさんの話が

始まった。バスさんから聞くネパールの事情は、日本の常識では考えられなかった。世界の屋根とヒマラヤ山脈を戴く神秘の国ネパール。古い歴史と豊かな文化を誇るこの国も、現在、低い識字率、不十分な教育と医療環境に苦しんでいる。子どもたちの多くが幼くして命を落としているとのことであった。電気のある生活をしている人は国民全体の約 1 割で、水道がある村に住んでいるのは約 2 割程度。ヒマラヤ近くの厳冬地帯があると思えばインドに接した南部地帯は、約 40 度にも達する気温であるという。特に心に残ったのは、今もなお残るカースト制度の話であった。身分が違えば婚姻できず、生まれながらに人生が決まっているのである。バス医師は首都カトマンズから飛行機を乗り継ぎ、さらに歩いて 1 週間ほどの山岳地に病院を建てるプロジェクトに携わることになっている。私はこのような友人がいることを誇りに思った。今の私にできることはチャリティでの募金だけである。しかし、一人でも多くの人々がこの国への理解を深めることで、何らかの国際貢献が始まるはずである。カレーもおいしかったが、それ以上にバス医師の話は忘れえない感動として参加した皆さんの心に留まることであろう。

チャリティの収益金と会場に置かれた募金箱の寄付金は、バス医師により今後建設される病院の運営費の一部に充てられる。



なし狩り&バーベキュー

京都府青年国際交流機構国際交流部長
本橋 桃子

9月、台風が接近している真っ只中、京都IYEOでは外国人青年との交流会「なし狩り&バーベキュー」を実施しました。京都府南部の八幡市で、なし園を経営する西川さんの協力のもと、大盛況でした。

当日は大雨雷雨の警報が出ており、苦しい選択を迫られましたが、一般公募でかなり頑張っただけで広報した以上、やめるにやめられず雨天決行の決定を下しました。早朝から仮設のシェルター作りをしながら、正直どれだけの外国人が集まってくれるのかスタッフは不安を隠しきれませんでした。ところがふたを開けてみれば、集合場所の八幡市駅には、わんさか人が溢れかえっているではないですか。その頃、ちょうどたたきつけるような雨が降る中、「楽しみにしていました」と集まってくれた外国人青年の笑顔に救われました。

大雨の中、集まった人数は、大人41人（うち、外国人19人）と子供7人（うち、外国人5人）で、ちょうど半々くらいの割合でした。国籍は、中国、香港、ブラジル、メキシコ、スペイン、スウェーデンと国際色豊かでした。聞くと、みんな、こういう機会を待ち望んでいたというから驚きです。もうひとつ特筆すべきことは、今回、京都市勤労青少年ホームや、日本語学校などで、一般公募した結果、国際交流は全く初めてだけど、興味があったとい

う日本人青年や親子から問い合わせがあり、参加してくれたことです。この催しのために、てるてる坊主を作ってくれた、などという話を聞くと、本当に「なし狩り」をやってよかったなと思いました。

雨で、屋根つきスペースが限られている中、50人近くが集まったのですから、とても一人一人自己紹介などしている余裕はありませんでした。それでも、あちらこちらで輪ができて、家庭的な雰囲気の中、話の花が咲いていました。みんなとても喜んでくれて、是非また次の集まりのお知らせを下さい、と言ってくれました。

アンケートでも、かなり好評だった手ごたえが感じられ、京都IYEO主催の「なし狩り&バーベキュー」は大成功に終わったと言えると思います。そして、なし狩りから4日後、参加した留学生が私達スタッフを、テニスとホームパーティーに誘ってくれました。なし狩りで生れた出会いが、あの一日限りで終わらずにこうして新しいつながりとなったことは、大変素晴らしいことだと思います。一回一回の機会を大切にこれからも活動していきたいと思っています。

アンケートの結果(抜粋)

(1) どんなことに興味がありますか？

スポーツ……………11

キャンプ/ハイキング……………20

温泉……………13

その他少数意見(カラオケ大会、バーベキュー)

全国大会富山大会

オブショナルツアーのご案内

オブショナルツアーの詳細をお知らせします。事前申込が必要となりますのでご注意ください。費用については、当日いただくコース（1、2）と事前取扱いの（3）と分かりますのでご了解願います。楽しさをより増すためにも、上手にご活用下されれば幸いです。

1. 富山名産「ますのすし」体験教室&ランチ〔定員30名 *先着順〕

駅弁で有名な富山のます寿司。富山にいらした機会に、ご自分で作ってみませんか。もちろん「寿司」は、体験後の郷土料理会席弁当の後のお土産としてお持ち帰り。
費用：2,500円/所要時間 2時間30分

2. 富山民俗民芸村と五百羅漢

民芸館、陶芸館、売薬資料館、篁牛人記念美術館を始め、富山の歴史と文化を語るミニテーマパーク。隣接する長慶寺境内には、五百体の羅漢石像が祭られています。
費用：630円/所要時間 1時間30分

3. 高熱隧道と黒四発電所見学（1泊2日/11月20日（月）午後解散）

〔定員20名*先着順〕

立山の深部を貫く壮大なルートがあることをご存じですか。電力事業の輸送路として、富山側と黒部ダムをつなぐ黒部ルート。普段は立ち入れないルートに皆さんをご案内します。帰途は、信濃大町から関東方面へ行くことも可能。又はアルペンルートを通って富山市へ戻るもよし。1泊の延長と防寒具の用意が必要になりますが、費用と時間をかける価値は充分ありと実行委員からのお勧め。

費用：9,100円（1泊2食宿泊代）、交通費及び11月20日昼食は別途

交通費 ① 富山駅～黒四発電所～黒部ダム～富山駅 …… 9,720円

② 富山駅～黒四発電所～黒部ダム～信濃大町 …… 4,580円

*コース3の詳細につきましては、パンフレット等を送付し確認していただきますので、富樫京子〔TEL.076-472-0659 FAX.076-472-0981 e-mail:togashi@lilac.com.ne.jp〕までご連絡を。

平成12年度青少年国際交流を考える集い(ブロック大会)開催日程

ブロック名	開催県予定	開催日	ブロック構成都道府県
北海道東北	北海道	9月15日～16日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	山梨県	10月28日～29日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	富山県富山市 (全国大会と同時)	11月18日～19日	新潟・長野・富山・石川・福井
中部	愛知県	10月28日～29日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	大阪府	1月27日～28日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	岡山県	1月27日～28日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	高知県	10月28日～29日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	福岡県	9月16日～17日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

メールアドレス・ホームページURL変更のお知らせ

IYEO事務局のメールアドレスおよびホームページURLが以下のように変更になりました。

メールアドレス: hq@iyeo.or.jp

URL: <http://www.iyeo.or.jp>

編集後記

このマクロコズムも36号を数え、第1号発行以来6年が経過しました。振り返るとなつかしい思い出ばかりです。

皆様のご期待に沿えていない部分も当然あると思いますが、お読みいただいている感想、リクエストなどお寄せ下さると幸いです。(R)

*本誌の年間講読をご希望の方は、奨青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 9月号 Vol.36 2000年9月1日発行(隔月発行)

編集:マクロコズム編集委員会

発行:財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.iyeo.or.jp>

編集協力:総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定価:198円(本体189円)

印刷所:株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

国際青年育成交流事業（招へい）課題別視察より（2000年7月21日）

各事業恒例の課題別視察ですが、連休の谷間でもあり、学校は夏休みも始まっている期間で従来のようなコースが組むことが厳しい日程でした。しかしながら、日頃から協力して下さる方々のご配慮で従来以上の内容とすることができました。こうした交流事業が、多くの方に支えられて成り立っていることを改めて知らされた機会でした。各訪問受け入れ先の皆様に重ねて御礼申し上げます。

〔文化コースⅠ〕



◀ 裏千家東京道場にて

▼ 深川江戸資料館



〔文化コースⅡ〕

歌舞伎座

市川猿之助七月大歌舞伎の一幕を見るとともに、歌舞伎座の方の説明もしていただきました ▶



〔教育コース〕

新宿区立戸塚第三小学校

夏休みでしたが、特別に交流プログラムを開催して下さいました。
本物の御神輿も登場！ 担ぎ方も習いました ▶



〔福祉コース〕

世田谷区立砧工房

すっかりお馴染みになりました
訪問する外国青年は変わっても、いつも楽しく迎えて下さいます

〔産業コース〕

キャノン取手工場

初めてお世話になりましたが、とても丁寧に受け入れて下さいました ▶

